

三つの資質・能力（授業課題・目標）に 対応したカリキュラム編成と授業デザイン



佐々木達行
元 千葉大学 教授

学習指導要領に対応した 先進的なカリキュラムの編成

開隆堂の教科書は、子どもたちに育成したい「三つの資質・能力」と「授業活動の題材内容」との二つの視点を基本にしたカリキュラムの編成を実現したことです。

これらは、「目次」として「三つの資質・能力」と「題材内容の映像」、部分と全体との関係が年間の「カリキュラム編成」として示されています。

子どもたちや先生方は、年間カリキュラムの部分と全体との関係を俯瞰し、総合的にとらえることができるようになります。

子どもたちに育成したい「三つの資質・能力（課題・目標）」は、一つの孤立した題材で達成されるものではありません。年間を通した題材内容が有機的に組み合わせられたカリキュラムを通して育成されるということです。

また、それらは、各学年、或いは6年間の横と縦、カリキュラム全体を通して育成されるという考え方です。

資質・能力、教え育てたい「めあて」を 明確に示した授業デザイン

新学習指導要領に三つの資質・能力（授業課題・目標）が示され、改めて授業における明確な「課題・目標」の設定と達成の大切さが述べられました。

授業は子どもの資質や能力を育成するために行うものです。

開隆堂の教科書では、各題材に三つの資質・能力に対応した具体的な「三つの学習のめあて」とその「重点となるめあて」を太字で示しました。

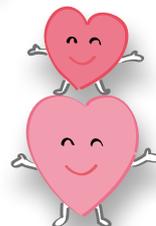
三つの資質・能力 ⇔ 三つの学習のめあて



くふうさん
「知識及び技能」に対応したキャラクター



ひらめきさん
「思考力、判断力、表現力」
に対応したキャラクター



こころさん
「学びに向かう力・人間性等」
に対応したキャラクター

また、「めあて」に対応した「ふりかえり」は、一つの「評価」の視点を示しています。

これらにより、目標を見失ったり、知識や技術に偏ったりした授業が避けられるように題材の活動内容が紙面に示されているのです。

